

夢をかなえる「パワー」を 心理学と音楽、保育のコラボで

ある時は保育士として子どもと向き合い、
ある時はシンガーソングライター「happy place」として歌う
異色の同窓生・福場良輔さん。メロディに込めた思いをお聞きました。

ふくば りょうすけ
福場 良輔 人文学部人間関係学科心理学専攻 30回生(2006年卒)
保育士・シンガーソングライター

PROFILE 1983年生まれ。岩国高校から修大へ進学する。保育士として働いた後、シンガーソングライター「happy place」として活動。さまざまな職業の方々が出た「夢色」CDは、広島市内の全ての公立小中学校206校にも贈られた。これまでの活動や今後のコンサート情報などはホームページに掲載中。アドレス <http://rise21.nobody.jp/>



さまざまな職業の人と「夢色」を歌う

——修大卒の保育士は珍しいですね。

元々はカウンセラーに憧れて、他大学の幼児心理学科を受験したのですが不合格。修大に進学した後心理学を専攻し、教育やカウンセラーなどに興味を持っていました。恩師の志和先生が講義で、児童相談所の一時保護所というものがあると教えてくれ、そこでのアルバイトを紹介してもらいました。4年間、困難を抱えた子どもたちに関れたことは、とてもプラスになっています。また、将来の進路として保育士の仕事に魅力を感じるようになり、大学4年の時に通信教育で資格を取得しました。しかし、修大には保育士の求人はないので、タウンページから探して、なんとか就職先を見つけることができました。

——保育の現場はどうでしたか？

予想とは大違いでした。短大や専門学校などで実習をたくさん経験された先生方に比べ、私は座学のみ。手遊び一つ一つでもうまくできませんでした。右も左も分からない中で子どもたちへの対応に悩み、身体を壊して半年で退職してしまいました。もう保育士をあきらめようと思っていた時、志和先生から「心理学を学んだ福場流の保育は、これから出てくるんじゃないかな」と言われ、本当に励まされました。2カ月後、もう一度だけやってみようと別の保育園に就職し、今に至っています。

保育園は行事が多く、保育士はかなりハードなのですが、日常のとりとめもないやりとりは本当に楽しいですよ。運動会を懸命にやりきった子どもたちと一緒に達成感を味わったり、やりがい

のある仕事です。

——音楽はずっと続けてきたのですか？

バンドブームが起きていた中学生の時、父親にギターを買ってもらったのが始まりです。高校が進学校で勉強づけたので、大学生になったら好きなことをしたいと思っていました。とはいえバンドには興味がなかったので、新たに「音楽愛好会」を結成し、大学に公認してもらいました。文化局サークルの集まりに1年生ながら参加していたので、先輩方にかわいがっていただきました。作詞作曲を始めたのは、修大に入ってからです。

ギターはずっと続けていて、保育園でも子どもたちにギターに合わせて歌ってもらっているんですよ。「歌」は、辛い時も楽しい時も、僕を力づけてくれる存在です。

——四葉のクローバープロジェクトが話題になっていますね。

子どもたちの夢や就職活動の応援歌として、総勢100人のさまざまな職業の方々に「夢色」という曲を歌ってもらいました。この活動のきっかけの一つは、修大の臨床心理学の授業で講師を務めたこと。就職氷河期の中で現役の学生たちが、夢を持っていないのではないかと思ったのが発端です。脚本家、教員、看護師、広島東洋カープの廣瀬



修大の教壇に立たせてもらいました



修大の卒業式の日。恩師・志和先生には今もお世話になっています

選手など、バラエティに富んだ方々が参加してくれました。100人の思いがこもった曲をCDにして、収益の一部は東日本大震災の被災地に贈るほか、CDは修大の図書館をはじめ学生や子どもたちに聞いてもらえる所に寄贈しています。夢を持つきっかけや、実現する後押しができればと思います。

——今後の夢を教えてください。

音楽を通じて、これからもさまざまな出会いを重ねていきたいと思っています。修大という同じ学び舎から巣立った同窓生の皆さんとも、どこかで縁があればと思っています。コンサートも行っていますので、ぜひ聞きにきてください。